

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日： 11月1日(月)

会場： 酒屋コミュニティセンター

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
避難所等について	<ul style="list-style-type: none"> ・酒屋は、昭和47年水害で浸しなかったため、「安全」と思われており、多くの人々が酒屋へ避難して来られる。平成30年豪雨の際の酒屋コミュニティセンターへの避難者のうち、酒屋からは1割、あとは他地域からの避難であった。水やトイレがある運動公園には車で300台避難された。コミュニティセンターは、避難者を収容できる人数に限られている。知人宅などに早めに避難をするようにPRしてほしい。 ・民間企業の駐車場の活用は、駐車場によっては洪水調整池を兼用しているため、大雨で浸かることもあるのではないかと。 ・工業団地にあった、馬場池が更地にされている。体育館を含めて活用されるのはどうか。 ・酒屋は地すべりが多い地域であり、道路アクセスの確保が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全市民が避難する広域避難場所をつくることは、現実的でなく、運動公園のほか民間企業の駐車場も協定により指定させていただいている。民間企業とはトイレの利用も協力していただくことになっている。 ・広域避難場所に行くまでのアクセスについては課題がある。道路の整備に当たっては、災害時への備えも考えたい。 ・平素から市民一人ひとりの防災意識を向上することが重要。防災意識を高めるための取組を継続的に行っていく。
防災教育について	<p>酒河小学校での防災教育(体験学習)で、いい経験をさせてもらった。子どものときの体験は大人になっても生きてくる。また、学校から自宅までの避難経路についても考えてもらえたと思う。</p>	-
ため池について	<p>小学生にはため池の危険性を知っておいてもらいたい。所有者が不明などの管理されていないため池がある。</p>	<p>危険なため池については、数が多くすぐには解決できないが、できる限り県と連携しながら対応していきたい。ため池の廃止も含めて、実態把握をする。</p>
鳥獣被害について	<ul style="list-style-type: none"> ・獣害が増えている。水路が壊されたり、ため池の土手が掘られ、防災とも無縁の話ではない。 ・鹿が笹を食べて、根が枯れていき、ため池の地盤が緩む。 ・住宅地の近くまでイノシシが来ている。鳥獣駆除を考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業における鳥獣被害額は年々増えている。市街地や住宅地にも影響が出ている。鹿やイノシシだけではなく、ツキノワグマの目撃情報も増えており、引き続き対策に取り組んでいく。 ・鳥獣対策として、ICTを活用した捕獲実証も始まった。実効性について検討している。

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
コロナ禍でのイベントについて	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でイベントを開催できていない状況である。「ふるさと祭り」は中止した。コミュニティセンターで酒屋地区の方々の作品のギャラリー展示を考えている。また、町内一斉清掃、グラウンドゴルフ大会、「酒屋いこいの森」整備作業については、コロナの感染防止に努めて実施する予定である。 ・パソコン、手芸教室などの生涯学習講座は再開している。子ども向けの行事はまだ再開できていない。 ・酒河小学校5年生にため池学習(ミニ防災教室)などを実施している。 ・行事が縮小されたため、予算が余って次年度繰越しが生じる。 	<p>少しずつであるがイベントや講座を工夫しながら再開され、自治会連合会としての活動を、取り戻しつつある状況を認識した。</p>
地域づくり人口について	<p>酒屋の人口は増えているが、「地域づくり人口」は減っている。若い人は仕事に行く一方、地域を担ってきた方々が高齢化しており、大きな課題である。勤務形態も多様化し、仕事を休んでまで地域活動に参加しない。</p>	<p>今後、地域づくりの担い手の育成は課題である。</p>
「まちづくりトーク」について	<p>今回の「まちづくりトーク」は参加人数を制限した開催のため、地域の人の意見を十分に反映できないのではないかと。</p>	<p>「まちづくりトーク」など、市民との対話については、今後、コロナなどの状況を見ながら進めていく。</p>
情報格差について	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人と高齢者との間で情報格差が出ている。メールですべて済むようになってきている。メール・スマートフォンでの情報提供が多いが、高齢者には対応できていない。 ・電話での詐欺やSNSによるいじめなど、情報社会の問題がある。情報制御は課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン教室は、好評である。情報発信については、携帯電話のほか、広報紙やケーブルテレビ、音声告知放送などの手段を増やして、高齢者の方に対する発信をしている。今後も幅広い世代に情報発信できるよう取り組んでいく。 ・情報制御については、認識を高めるような啓発をする。情報利用によっては、詐欺やいじめにつながるため、自治連合会やPTA、家庭内などでも学習しないといけいない。